

いにしえの人々に思いをはせて **7kmコース** 西国街道浪漫コース

コンセプトポイント



1 寺家町

「寺家町」はJR加古川駅の西側一帯の大字名で、寺院がこのあたりに莫大な領地を所有していたことから、この名がつけられたと言われている。江戸時代には西国街道の宿場町「加古川宿」として栄えた。

チェックポイント 商店街の中にある陣屋は、1752年に建てられ、参勤交代の為に西国街道を通る大名の宿泊施設として使われた。



2 うだつの上がる家

うだつは元々、火事の延焼を防ぐために作られていたが、江戸時代中期ごろから徐々に装飾の意味合いが強くなっていった。うだつを上げるためにはそれなりの出費が必要だったことから、これが上がっている家は比較的裕福な家に限られていた。そのうだつの上がっている家が、溝の口の西国街道沿いに残っている。

チェックポイント 「うだつが上がらない」という言葉は上記のことからきている。



3 胴切れの地蔵

その昔、西国街道を通る大名行列の前を横切った男が待たれずに斬られてしまったが、ふと気がつくとも何もなくて無事だった。そばを見回すと、普段お参りしているお地蔵さんの胸が二つに割れ、男の身代わりとなっていたという伝説が残っている。それ以降近隣の人々が「胴切れのお地蔵さん」と呼び、大切に祀っている。

チェックポイント 後ろに回ってみると、地蔵の胴体が二つにわかれていることが確認できる。



4 教信寺

天台宗の寺院で、本尊は阿彌陀如来(あみだによらい)。平安時代前期の僧、教信上人(きょうしんしやうにん)がこの土地に庵を作り、庶民仏教の普及に努めた所である。幕末期に、本堂を焼失したが、明治に書写山円教寺の念仏道場を移築したのが現本堂となっている。また、教信上人の命日には、毎年、「野口念仏」と称し、会式を行っている。

チェックポイント 境内には、県指定文化財である教信上人の石像もあります。また、春には、見事な桜も見られます。



5 五社宮野口神社

神社の主神は日吉大神(ひえのおおかみ)で、比叡山延暦寺の守護神、日吉大社(ひよしたいや)から分霊を迎え、のちに四柱(よはしら)の神を合わせ祀ったという説がある。神社の西にある教信寺は延暦寺の末寺であることから深いつながりがある。1月に厄神大祭、7月に夏祭、10月には例大祭を行っている。

チェックポイント 堀沿いの東側の角には、昔、西国街道を行きかう人々が目印にしていた道標がある。



よりみちポイント

- A** スタート・ゴール地点 **加古川公民館**
- B** **光念寺**
- C** **ベルデモール**
- D** **龍泉寺**
- E** **宝篋印塔**

【凡例】
— モデルコース
1~**5** コンセプトポイント
A~**E** よりみちポイント

©That's & Trial 2010